

CASBEE 広島 2016年版
損保ジャパン 広島紙屋町ビル 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境					0.40		-		3.0
1 音環境				3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	4.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	5.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-		3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		室面積の広い事務室はゾーン毎にパッケージエアコン室内機を設		4.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	4.0	-		
3 光・視環境				2.9	0.25	-	-		2.9
3.1 昼光利用				3.4	0.32	-	-		
1 昼光率				3.0	0.59	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	5.0	-		
3 昼光利用設備		中央共用階段にトップライトを設置し、就業時間中に昼光を導入でき		4.0	0.41	-	-		
3.2 グレア対策				2.0	0.29	-	-		
1 昼光制御				2.0	1.00	4.0	-		
3.3 照度		全館LEDを採用し、事務所の目標照度750lx		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		照度センサを設置し昼光利用を行う。		3.0	0.24	-	-		
4 空気質環境				2.8	0.25	-	-		2.8
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	4.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.34	4.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	4.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.34	5.0	-		
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.9
1 機能性				3.5	0.40	-	-		3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	4.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.35	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室天井高さ2.8mとし、北、西、南面に開口を設置した。		4.0	0.34	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-		
3 内装計画		内装コンセプトを決め、インテリアパースにより内装デザインの検討		4.0	0.34	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		耐久性の高い内装材を選定すると共に、外装材の塗装は耐候性の		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		建物維持管理をするためのスペース(清掃員控室・SK・倉庫)を十		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.3	0.30	-	-		4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		制振装置を設置し、層間変形角を中地震時に約1/200、大地震時に		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		制振装置を設置し、地震時および強風時の内部設備保護を図った		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		外気取入、厨房排気、屋外露出部のダクト材料にガルバリウム鋼板		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・汚水排水の配管に規定の管種を使用した		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		防災センターやBCP上優先度の高い室の換気・空調設備の動力系		4.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、系統分割、汚水槽の設置、雑用水利用を行う計		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		引込は本線・予備電源線の二重化を採用した		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスにAクラスを採用した		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		引込ルートを二重化している		4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階階高を4.0mとして計画した。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	4.0	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	4.0	-	
1階店舗、2階会議室、基準階事務室で積載荷重を4900N/m ² で計							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	基準階にケーブルラックを敷設	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	基準階にケーブルラックを敷設	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
周辺建物と壁面位置を統一したり、事前の景観シュミレーションを							
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.9	0.20	-	-	4.9
開口部を極力小さくし、建物外皮の熱負荷を抑える計画とした。							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
中央共用階段にトップライトを設置し、就業時間中に昼光を導入でき							
3 設備システムの高効率化			2.6	0.50	-	-	2.6
[BEI][BEIm] = 0.87							
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.6	0.20	-	-	3.6
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用を行う計画とした。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	機械排水の雑排水利用を行う計画とした。	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			4.0	0.10	-	-	
柱材にF=385N/mm ² を使用、CFT充填コンクリートをFc=42で計画し							
2.2 既存建築躯体等の継続使用			5.0	0.20	-	-	
地下水位が高いため、既存地下躯体を山留として再利用すると共							
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
なし							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
なし							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
地上部を鉄骨造とし、躯体と仕上げ材を容易に分別可能な計画とし							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
有害物質を含まない材料仕様を設計図書に明記した。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火の消火剤に窒素を使用した。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
ライフサイクルCO ₂ 排出率が極力少なくなる計画とした。							
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水を地下ピットに貯留する計画とした。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		5.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	